

【概要】ジャガイモシストセンチュウ抵抗性品種の普及拡大に向けて

平成24年12月12日北海道産馬鈴しょの安定供給に関する検討会

【基本的な考え】

- 道産馬鈴しょの安定供給のためにはジャガイモシストセンチュウ(収量最大半分の可能性、種馬鈴しょ栽培不可)の拡大防止に向け対策を講ずる必要。
 - ジャガイモシストセンチュウ対策としては、抵抗性品種の導入が効果的であり、重要課題。
 - ジャガイモシストセンチュウの拡大によって、生産者だけでなく、実需者や消費者にも悪影響が及ぶことから、抵抗性品種の普及拡大は幅広い関係者が連携して取り組む必要。
 - 当面は既存の有望な抵抗性品種の普及拡大に努めることとし、今後に向けては、新たな抵抗性品種の普及拡大に向けた検討や、研究体制の充実に向けた取組みを推進。
 - 種馬鈴しょの増殖率が10倍程度と低いことから、馬鈴しょの品種の切り替えには、息の長い取組が必要であり、実需者や消費者の理解が必要。
- ※ なお、抵抗性品種の導入はジャガイモシストセンチュウ対策の一つであることから、産地においては、引き続き、「北海道ジャガイモシストセンチュウ防除対策基本方針」に基づき、総合的なジャガイモシストセンチュウ対策を実施する。

【主な取組】

＜普及拡大体制の構築＞

- 本検討会等を活用し実施状況や進捗状況を確認
- 地域での普及拡大体制の整備を推進

＜消費拡大対策＞

- 道内関係者(行政、生産者団体、主産地、試験研究機関、流通・加工企業、消費者団体、関係機関等)が連携した、一般消費者及び実需者等に対する消費拡大活動の実施
- 既存の品種や抵抗性品種の市場調査及び関係者との調査結果の共有

＜生産対策＞

- 実証展示ほ場の設置による地域に適した栽培技術の検討を推進
- でん粉用の「コナユキ」などの安定多収栽培法の開発

＜研究開発＞

- 道内研究機関の連携強化・役割分担(各種試験や選抜の協力・分担実施、遺伝資源の相互利用など)
- 道内外研究機関の連携による育種選抜の効率化・省力化の検討

＜増殖体制＞

- 実証展示ほなどの試験で用いる、試験用種馬鈴しょの増殖体制の検討・整備(品種化後、一般ほ場での栽培までの期間の栽培試験に対応)

＜その他＞

- 全道的な普及率として平成34年度に50%を目指す
- 地域での普及目標設定を推進
- 抵抗性品種の普及を積極的に推進するため、「北海道ジャガイモシストセンチュウ防除対策基本方針」の改正を検討
(発生ほ場では基本的に、輪作体系の確立とともに抵抗性品種の導入を進める、未発生地域でも栽培技術の確立などの観点から抵抗性品種の導入を進める)

ジャガイモシストセンチュウ抵抗性品種の普及拡大
⇒北海道産馬鈴しょの安定供給